

## シンクイムシ類

### 発生生態

#### ナシヒメシンクイ

モモ、リンゴ、ナシ、ウメ、スモモなどの果実、新梢を加害する。成虫（写真1）は通常葉に産卵する。ふ化幼虫は初め新梢を加害するため、新梢の先が急にしおれ、枯れてしまう。これを芯折れと呼ぶ（写真2、3）。第2世代幼虫以降は果実も加害する（写真4）。



写真1 ナシヒメシンクイ成虫



写真2 モモ芯折れ



写真3 新梢中の幼虫



写真4 モモ被害果

#### モモシンクイガ

リンゴ、モモ、ナシ、アンズ、ウメ、スモモなどの果実だけを加害する。果実に産卵する。ふ化幼虫（写真5）はただちに果肉内に食入し、果肉内を縦横食い荒らす（写真7、8）。本県での成虫（写真6）の羽化は、6月下～7月上旬頃、7月下旬頃、8月下旬頃の3つのピークが見られる。



写真5 モモシンクイガ幼虫



写真6 モモシンクイガ成虫



写真7 リンゴ被害果



写真8 リンゴ被害果

### モモノゴマダラノメイガ

モモ、リンゴ、ナシなどの果実を食害する。成虫（写真9）は、夜間に卵を枝や果実の表面に産卵する。ふ化幼虫は果こう部付近から食入し、成長してくると外部に粒状の糞を大量に排出する（写真10）。



写真9 モモノゴマダラノメイガ成虫



写真10 モモ被害果

### 防除のポイント

- ・ナシヒメシクイ、モモシクイガは、複合交信かく乱剤を処理することで、合成性フェロモンを園内に充満させて交信をかく乱し、交尾を阻害し、次世代の密度を低下させる。
- ・芯折れ被害や被害果は、見つけ次第摘除し、5日間以上水に浸すか、土中に深く埋める。
- ・幼虫の越冬しやすい場所の粗皮を削り落とす。

### 参考文献

- (1) ひと目でわかる果樹の病害虫—第三巻—／社団法人 日本植物防疫協会

### 写真提供

- (1) 福島県農業総合センター果樹研究所